

# メコンデルタ地域参加型改善国際研修 ツアーの経年経験からみた交流の意義

仲尾豊樹<sup>1</sup>、平野敏夫<sup>1</sup>、伊藤昭好<sup>2</sup>、小木和孝<sup>3</sup>

<sup>1</sup>NPO東京労働安全衛生センター、

<sup>2</sup>産業医科大学、<sup>3</sup>労働科学研究所

# ねらい

1. **参加型改善の国際研修の経験が毎年積み重ねられているので、その運営の特徴を検討します。**
2. **異文化を背景にした参加者が共感を分かちあっていくダイナミックな過程の意義を考えます。**

# 方法

1. **メコンデルタ地域の工場・農村を対象にした改善ワークショップの準備と運営を実習する約1週間の研修ツアーを2000年からほぼ毎年行っており、その経験をまとめます。**
2. **安全と健康、働きよさを取り上げ、良好事例・チェックリスト、パワーポイント教材を活用するなどの実務面の特徴と、参加者の共感を醸成していく経過とに注目します。**
3. **参加者は日本、韓国、ヴェトナム、タイなどからの実務家、研究者、労働組合員、NPO職員、学生などからなります。**

# 参加型改善研修のすすめ方

第1, 2日

参加型の説明

地元改善実例  
を収集します

⋮ 工場・農  
⋮ 家訪問

- チェックリスト演習
- 地元良好実践

第2, 3日

グループワ  
ークで教材  
を整えます

第3, 4, 5日

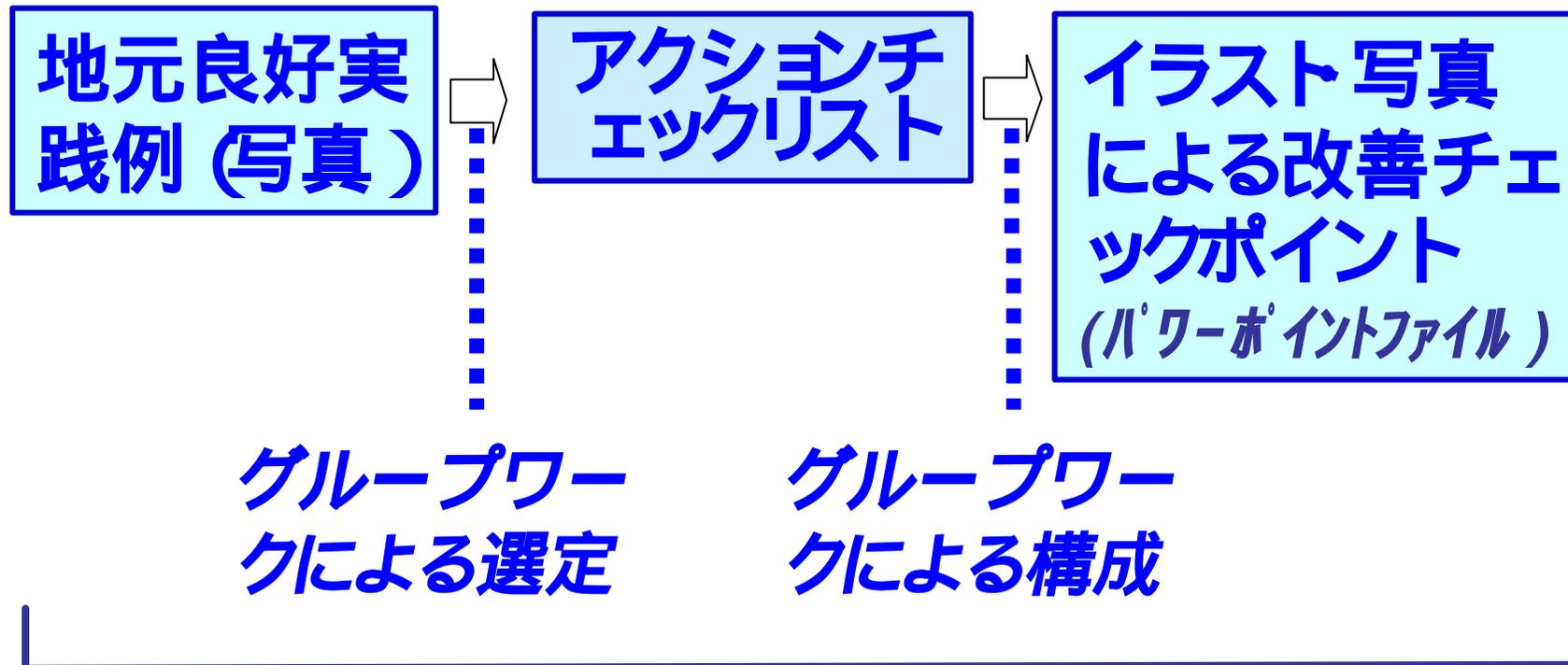
短期ワークショ  
ップを運営し  
地元の人々と交  
流します

- ⋮
- 参加型の運営
  - すぐの改善を体験

.....  
グループワークを反復します

(Participatory Action-Oriented Training,  
PAOT)

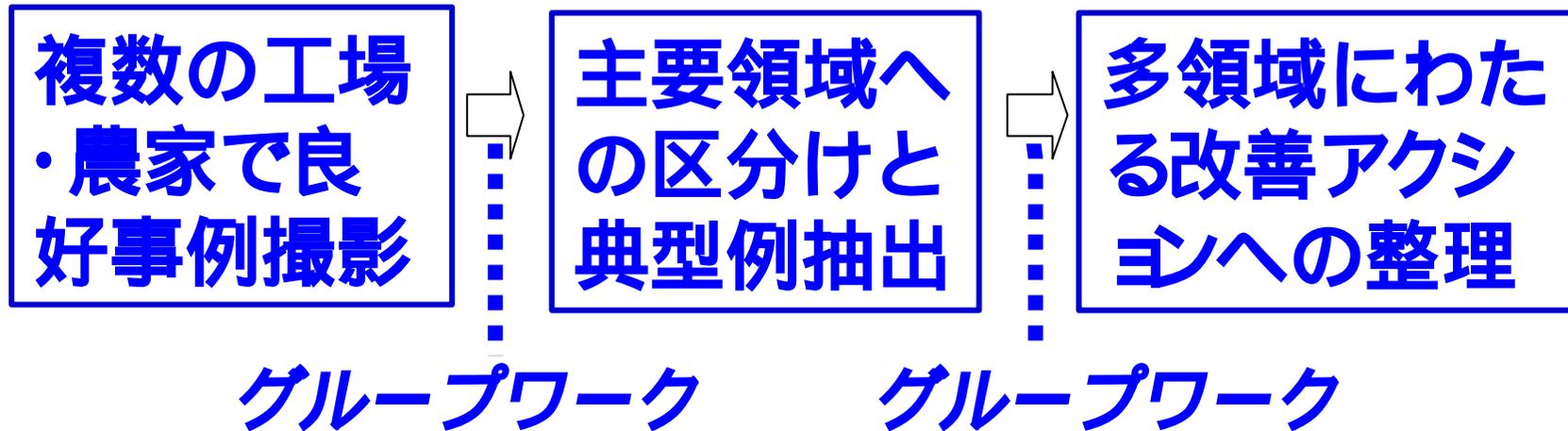
# 参加型トレーニングキットの構成



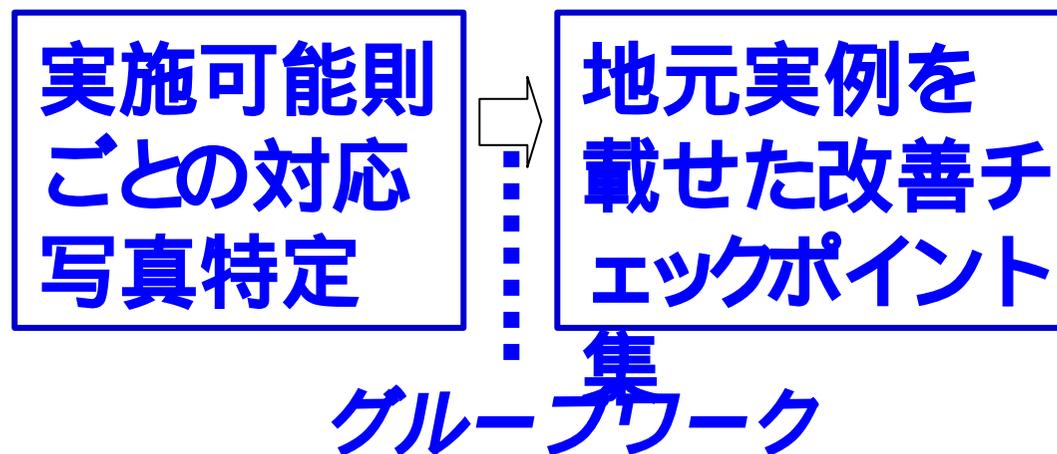
## <追加改善策実施のためのトレーニングキット>

- 「健康に働く」を柱に、運搬・作業台・作業環境・厚生施設・環境保護・地元協力を取り上げる -

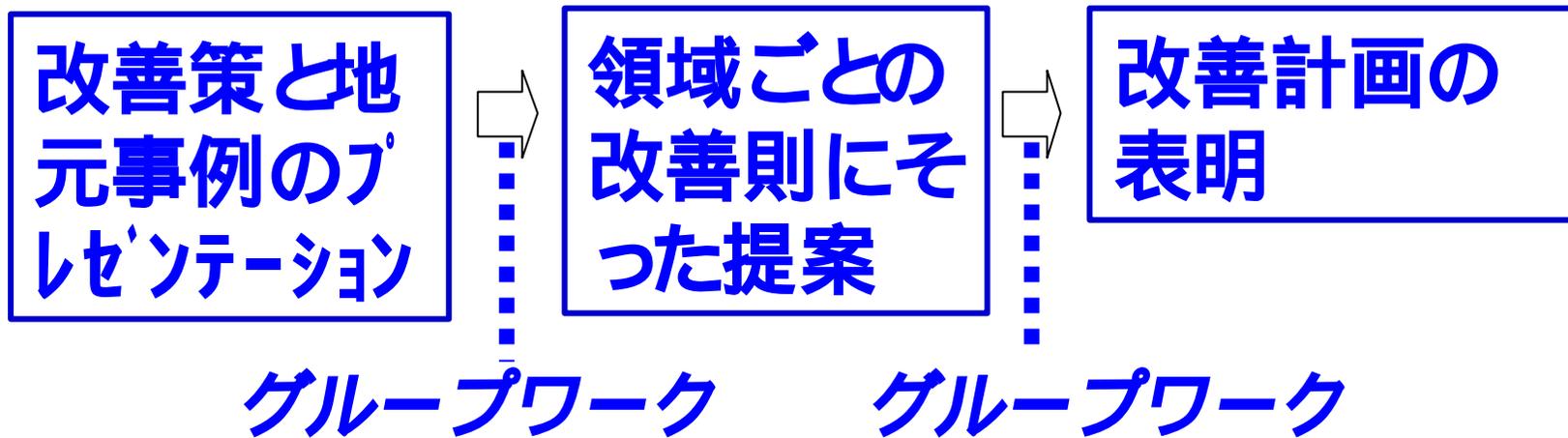
## 第1ステップ.良好実践例を整理します



## 第2ステップ.実施可能策の教材を作ります



## 第3ステップ. 連結討議で地元と協働します



各ステップを通じて、  
参加型改善3原則が研修の核となっています

良好実践の上に積み上げます

多領域低コスト策を取り上げます

すぐの改善指向で協働します



# 運搬と保管



# ワークステーション設計



# 作業場環境



## 国際研修ツアーのこれからの課題

- **良好実践方式への理解をどう深めるか**      地元の実例から学ぶことに徹する
- **異文化状況で共感をどう形成するか**      参加型の全過程を共同体験する
- **改善指向のグループ協働をどう継承するか**      「ポジティブ思考」を核にする

# 研修参加者の評価



## < よかった点 >

- 良好実践方式
- 分かりやすい発表
- グループワーク

## < 改善すべき点 >

- 手法の理解
- プレゼンテーション
- 活性化する方法



# 学んだこと

- (1) **良好実践視点**： 地元の働きざまに見合った改善研修には、地元実例を反映したツール利用を体得することが基盤となります。
- (2) **小さな体験の共有**： 低コスト策に力点をおく多領域改善提案とさまざまな共同体験がよい研修成果につながります。
- (3) **共感できるグループ協働法**： 短期の共感から現場条件に根ざしたグループワークを行う方法を応用可能にしていく必要があります。

